

原子炉安全専門審査会・核燃料安全専門審査会  
火山部会(第10回)における主な意見について

令和4年11月18日

原子力規制庁

## 議題1「火山事象に関する知見等に係る情報の収集・分析結果について」 に対する主な意見について

委員	内 容	対応状況
宮町部会長 代理	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新たな調査審議事項については、火山部会設置時の役割の範疇を超えてくるので、現在の部会委員の人員及び体制では十分ではなく、今後の火山部会において十分な調査審議を行うための部会委員の増員を規制庁で検討願いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 令和4年6月16日より、以下の3つの観点から新たに臨時委員を任命し、火山部会の体制強化を図っている。</li> <li>① 新知見対応で不足する分野の有識者</li> <li>② 九州地域の5火山に詳しい有識者</li> <li>③ 東北地域の3火山に詳しい有識者</li> </ul>

## 議題2「九州電力株式会社 川内原子力発電所及び玄海原子力発電所 火山モニタリング結果に係る評価について(案)」に対する主な意見について

委員	内 容	対応状況
高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回会合で意見したGNSSの基線長や地震活動の増減に関しては、定量的な評価を進めたほうがいいのではないかということについて対応されている。引き続き、様々な手法があるので、検討していただきたい。例えば地震発生数というのが評価の一つの項目になっているが、余震活動と平常的なバックグラウンドのサイズミシティの上昇下降はあるのかを考慮しておくことを念頭に置いて、検討を進めていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州電力の2021年度報告において、GNSS連続観測による基線長変化、地震活動変化などについて定量的な評価の検討を行っていることを確認しているが、引き続き、様々な手法があるので、中・長期的取り組みとして検討を行うように、九州電力へ伝達した。</li> </ul>
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>干渉SARの解析結果と水準測量の結果が、何となく整合的でないような気がするが、両者を比較した検討はしているのか。</li> <li>地温勾配、地殻熱流量に関する文献については、田中ほか(2004)を引用しているが、2019年にアップグレードされているので最新版を参照した方が良い。また、それには熱伝導率のデータも収めてあるので、場合によっては、使うことが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州電力の2021年度報告において、水準測量(2019.11-2020.11)から得られた上下方向の地殻変動結果と比較した結果、始良カルデラの周辺においては、北縁側で干渉SAR時系列解析結果が水準測量結果よりも変動が小さいものの、概ね整合的な結果が得られていることを確認した。</li> <li>九州電力の2021年度報告において、産総研(2019)による地殻熱流量等のデータを引用していることを確認した。</li> </ul>